

【算数・小1・「ひきざん」】①

育成を目指す資質・能力

【単元の目標】

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

ICT活用のポイント

児童「ICT端末を使ったブロック操作と説明」

教師「児童の考えを把握し、意図的指名や集団解決の展開を考える」

【つかむ】

ケーキの写真を手がかりに、どこから3個取るかを考えさせることで、本時のめあてをつかむ。

【めあて】ばらからひくけいさんのしかたをかんがえよう。

【追究する】

被減数を10と2に分け、一位数（ばら）からひくことに着目して計算の仕方を考え、操作や図で説明する。

【まとめる】

ばらからひく計算の仕方をまとめ、適用問題に取り組む。

事例の概要

○ブロック操作を通して、減数が被減数の一の位の数に近い場合の繰り下がりのある減法計算で、被減数を10と1位数に分解して、その1位数から計算する方法（減々法）を理解し、説明できるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

○学習支援ソフトでブロック操作を行い、矢印を書き込んだり、計算方法を記入しながら考えたりする。ペアで画面上のブロックを操作しながら説明し合う。

【事例におけるICT活用の場面②】

○考えを共有する場面で、全員にデータを提出させて大型モニターで一覧表示する。机間指導とデータの提出により、教師は児童の考えを把握して、意図的に指名したり、集団解決で学びを広げ深めたりしていく。また、適用問題を個々のICT端末に配付し、解答を提出させる。

【算数・小1・「ひきざん」】②

【事例におけるICT活用場面①】

学習支援ソフトを使ったブロック操作と説明

カードのブロックを操作して、ばらからひく計算の仕方を考えてみましょう。



児童

児童

初めに「ばら」の2をひいて、次に残った10から...

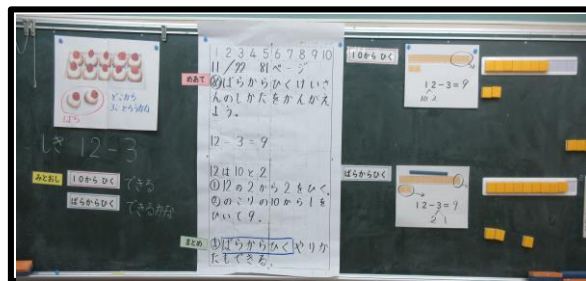
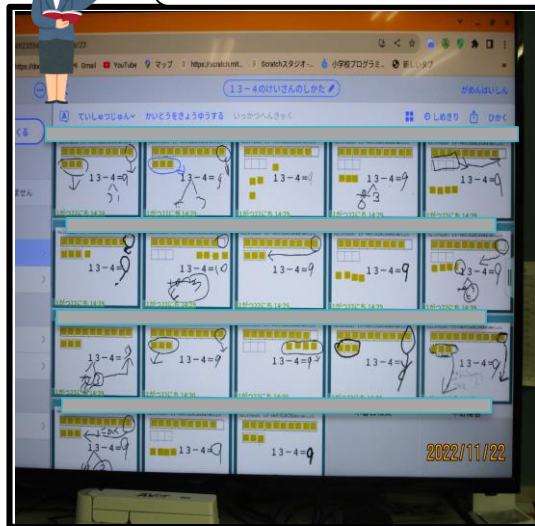
ブロック操作をICT端末で行うことで、ブロックの準備や片付けの時間が短縮できた。また、カード上だと操作だけでなく印を付けたり、カードに書き込んだりすることが同時にできる。

ペアでの説明ではICT端末を操作しながら行うことができる。低学年ということもあり、具体物のブロックが落ちたり、手遊びをしたりしてしまうという課題がなくなる。

【事例におけるICT活用場面②】

「カード」を提出し大型モニターで共有・比較

みんなの考えを見てみましょう。



ばらからひいても、10からひくと同じ答えになったよ。ばらからひくやりかたもできたね。



考えを共有する際に、学習支援ソフトや大型モニターを使ったことで、教師が児童の考えを把握しやすくなった。そして把握した考えをもとに、教師が意図的に指名したり、リレー形式で児童に説明させたり、切り返しの発問を行ったことで、多様な考えに触れ、学びを広げ深めることにつなげていた。

学習の「振り返り」では、適用問題に取り組みカードで提出させることで、指導と評価の一体化を図ることができた。また一年生なので、ノート指導も大切にしたいという考えから、ICT端末とノートの使用のバランスがしっかり考えられた授業デザインや板書計画、単元構想となっていた。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト（ブロック操作できるカード・データ提出・受信・一覧表示） ・大型モニター